

●手足口病

平成27年の手足口病の報告数は27,500例で、平成26年の2,239例に比し、25,261例、1128.2%の増加を示した。定点あたり報告数は平均2.60で、平成26年定点あたり報告数0.22の1081.8%増であった。23年の大流行に次ぐ、大きな流行であった。

平成27年の大阪府13疾患総報告数156,006例の17.6%を占め、多い順では第2位であった。全国の手足口病の報告数381,720例は、全国13疾患総報告数では第3位であった。

週別の定点あたり報告数では 第2週(1月)から0.2を超え、第11週に0.5を、第11週(3月)には0.9を、第16週(4月)には2.0を超えた。第19週・20週に少し減少したものの、第21週(5月)に3.0を超え、第25週(6月)に5.0を超え、第27週(6月)に7.0を、第28週(7月)に9.0を、第29週(7月)に12.0を超えてピークを形成した。

月別では 7月8,858例が最も多く、次いで8月5,758例、6月5,102例、5月2,010例、4月1,904例、9月1,757例と続く。夏型感染症であった。

年齢別では 1歳児7,824例が最も多く、次いで2歳児5,620例、3歳児4,131例、4歳児2,778例、0歳児2,463例、5歳児1,808例であった。0歳から5歳までの就学前児童の報告数24,624例が全体の89.5%を占めた。乳幼児期の感染症と言える。

ブロック別の報告数では ③北河内5,013例が最も多く、次いで、⑦泉州3,615例、⑤南河内3,586例、④中河内3,347例、①豊能2,201例、⑧大阪市北部2,158例の順に報告数が多い。

ブロック別の定点あたり報告数の年平均では ⑤南河内4.23が最も高く、次いで、③北河内3.50、④中河内3.16、⑦泉州3.10、⑧大阪市北部2.91と続く。

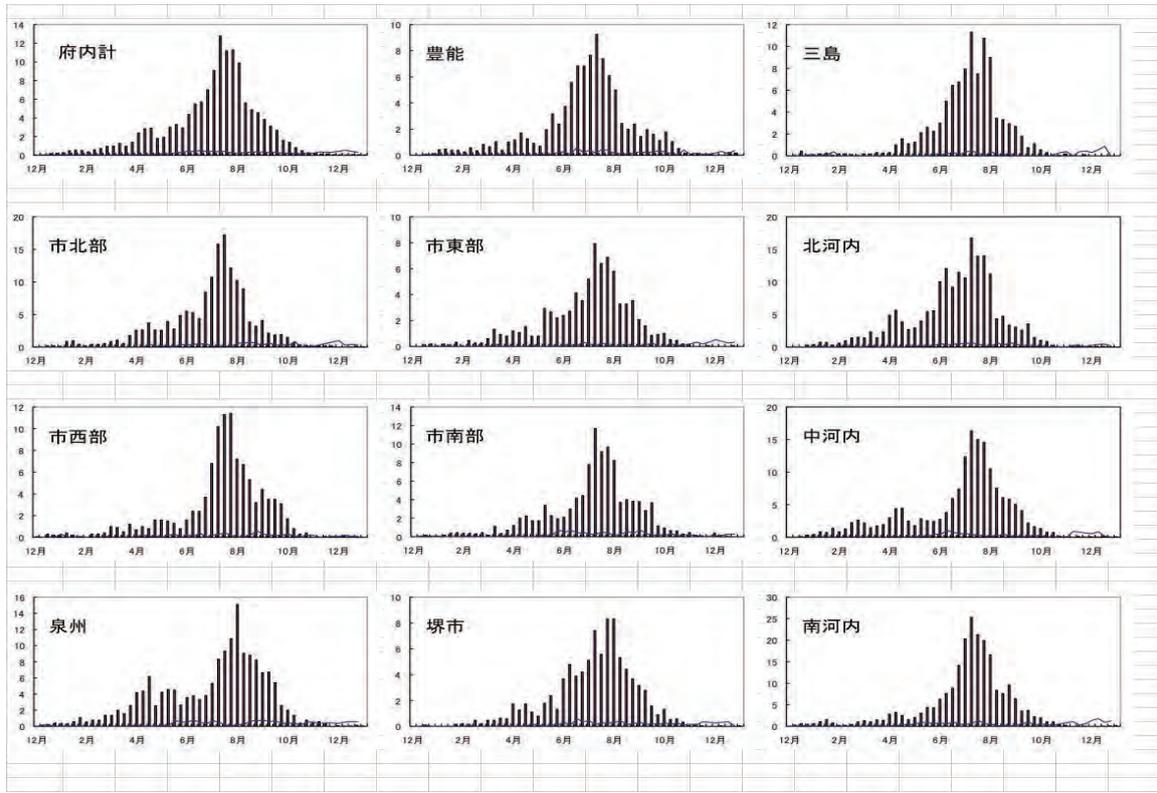
ウイルス検出は171検体中144検体で陽性、陽性率は84.2%であった。検出ウイルスはコクサッキーウイルスA(CA)6型が76件、CA16型が38件、エコーウイルス(E)18が5件、CA9型・CA10型・E16型・ライノウイルスAが3件、コクサッキーウイルスB(CB)5型・ヒトパレコウイルス型不明が2件、E3型・E25型・エンテロウイルス71型・パラインフルエンザウイルス(PIV)4型・ライノウイルス・ライノウイルスC・RSウイルスBが各1件ずつ、ライノウイルス型不明が11件であった。(9例の重複感染あり)

(文責：信田)

手足口病

線 (H26年第1週～第52週)

棒 (H27年第1週～第53週)



線 (H18年第1週～H27年第53週)

